

防災対策調査特別委員会 行政視察調査報告書

- 1 視 察 日 平成 30 年 7 月 11（水）～12 日（木）

- 2 視 察 先 ○福井県勝山市
 テ ー マ 防災行政無線の活用について
 ○福井県あわら市
 平成 30 年豪雪について

- 3 視 察 者 委 員 長 西 田 真
 副 委 員 長 椿 野 仁 司
 委 員 浅 田 徹
 委 員 伊 藤 仁
 委 員 奥 村 忠 俊
 委 員 木 谷 敏 勝
 委 員 土生田 仁 志
 当 局 佐々木 直 久（防災課 係長）
 議会事務局 伊 藤 八千代

項 目	勝 山 市	あわら 市
市 の 概 要 市(県)制施行 人 口 世 帯 数 面 積	昭和 29 年 9 月 1 日 23,585 人 7,978 世帯 253.88 k m ²	平成 16 年 3 月 1 日 28,422 人 10,124 世帯 116.99 k m ²
産業別就業人口 第 1 次産業 第 2 次産業 第 3 次産業 分 類 不 能	12,557 人 780（ 6.2%） 4,424（35.2%） 7,276（58.0%） 77（ 0.6%）	15,132 人 923（6.1%） 4,711（31.1%） 9,345（61.8%） 153（1.0%）
予 算 規 模 一 般 会 計 特 別 会 計 企 業 会 計 実質公債費比率 財政力指数 経常収支比率 地方債残高	千円 12,133,490 （ 9） 6,562,331 （ 1） 758,947 8.7 % 0.45 98.6 % 12,206 百万円（H28）	千円 14,540,000 （ 3） 3,451,680 （ 4） 3,357,750 7.2 % 0.65 86.6 % 18,142 百万円（H28）

*人口、世帯数は、平成 30 年 3 月末住民基本台帳、産業別就業人口は、平成 27 年国勢調査結果。

*予算額は、平成 30 年度、実質公債比率から地方債残高までは、平成 28 年度決算による。



I 市の概要（位置・地形・気候等）

1 沿革・位置・地勢

明治の市制町村制により、現市域内に1町9箇村が誕生。その後、猪野瀬村が勝山町に編入合併され、昭和29年（1954）9月1日、町村合併法により勝山町、平泉寺村、村岡村、北谷村、野向村、荒土村、北郷村、遅羽村、鹿谷村の1町8箇村が合併して、人口39,043人の勝山市が発足した。

勝山市は福井県の東北部に位置し、市の中心は福井市の東方約28キロメートルの地点にあり、東南は大野市に、西南は福井市、北西に坂井市、吉田郡永平寺町、北は石川県に隣接している。面積は253.88平方キロメートルで、長さは東西に23.3キロメートル、南北に17.0キロメートルであり、市の周辺は1,000メートル級の山々に囲まれ、中心部は県下最大の河川である九頭竜川の中流域に位置している。

市街地は九頭竜川の流れに沿って形成された河岸段丘に位置しており、明治以来の地場産業である繊維産業を中心とした商工業、古くから盛んな農林業を期間産業とする水と緑の豊かな田園都市である。

九頭竜川の形成した河岸段丘上に、旧石器時代から人々が住んでいたことが発掘調査によって明らかとなっている。

縄文時代になると生活範囲が広がり、市内各地で生活の跡が確認されている。

奈良時代に越の大徳と呼ばれた秦澄大師が開いたと伝えられる白山中宮平泉寺は、白山信仰の一大拠点として、最盛時には48社36堂6千坊を誇り、越前文化の中心的存在となり、商工業や文化が大いに高まり繁栄したが、天正（1574）、一向宗徒の焼き討ちにより一夜にしてその栄華を失った。

その後、柴田勝安が一向一揆を鎮め、袋田村に勝山（袋田）城を築きこれを統治した。勝山の地名は一向一揆勢が立てこもった御立山（通称村岡山）を「勝ち山」と呼んだことから起こったといわれる。元禄4年（1691）に、小笠原氏が入封し、明治に至るまで藩政が続いた。廃藩置県後、機業が勃興し、羽二重を中心とする絹織物の製造が盛んになり、さらに昭和初期には人絹織物の導入によって織物立国を形成した。戦後は、設備の近代化、技術革新により高級合繊織物の一大産地として国内外に知られた。



2 気象・地域資源

勝山市は、典型的な内陸性気候で、一年を通して湿潤で寒暖の差が激しいのが特徴であり、福井県内でも大変雪の多い地域である。除排雪体制は大変充実しており、幹線道路には早朝から除雪車が出動し、通勤通学の時間帯にはきれいに除雪されている。

また、勝山市は、大野盆地北部を占める商工業都市であり、中世は白山信仰の拠点、平泉（へいせん）寺を中心に発達。江戸時代中期ごろから小笠原氏の城下町となる。糸・牛首紬（うしくびつむぎ）などの集散地をなした。明治期から絹織物や人絹・合繊の織物業が発達、福井機業地帯の一角を構成している。ほかに縫製・窯業工場などがある。農業では稲作・畜産と野菜栽培が盛んである。

市街地は九頭竜川の流れに沿って形成された河岸段丘に位置し、明治以来の地場産業である繊維産業を基幹産業とした商工業と、古くから農林業が盛んな水と緑の豊かな田園都市である。

まちづくりの面では、平成14年に、まち全体を「屋根のない博物館」とする構想で、「勝山エコミュージアム推進計画」を掲げ、平成23年からは第5次勝山市総合計画がスタートし、「エコミュージアムによるふるさとルネッサンスの実現」を基本理念に、「小さくてキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」を目指してさまざまな施策の展開を図った。平成21年10月には、勝山市全域をエリアとする「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」が日本ジオパークで認定された。ジオパークの理念がこれまでのまちづくりの方向性と同一であり、かつエコミュージアムの理念を包含するものであることから、平成29年の第5次勝山市総合計画改訂では、基本理念を「ジオパークの魅力を活かしたふるさとルネッサンスの実現」と改め、地球活動の産物である市内の地形や地質の特性により育まれた自然、歴史や文化、産業、人の暮らし等の地域資源を守り活用しながら地域の持続可能な発展のためのまちづくりを現在進めている。

観光分野では、養老元年（717年）泰澄によって開かれた白山信仰の拠点寺院平泉寺白山神社の梅雨時から夏にかけて観られる一面に生える見事な苔は、京都の西芳寺と共に有名であり、高さ17メートルの日本最大の越前大仏がある清大（せいだい）寺と並び多くの観光客が訪れる。

また、勝山市は、昭和63年（1988）に、手取層群の1つ北谷町杉山で1億2千万年前の肉食恐竜の化石等が発見されて以来、この地域一帯は全国でも貴重な恐竜化石の宝庫としてクローズアップされ、平成12年に福井県立恐竜博物館が開館した。「恐竜」を主たるテーマとした自然史博物館で、カナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館、中国の自贡恐竜博物館と並び世界三大恐竜博物館と称され、日本における恐竜博物館の代表格であり、人気の観光スポットである。平成21年に、勝山市全域が恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークとして日本ジオパークに認定され、また、平成29年には、勝山で発見された5種類の新種の恐竜の化石標本とその発掘現場が、「学術の上重要な標本とその産地として貴重である」と認められ、「勝山恐竜化石群及び産地」として国の天然記念物に指定された。



▲人気の観光スポット 勝山恐竜の森



▲白山信仰の拠点 白山神社本殿



▲日本最大の大仏 越前大仏

Ⅱ 調査事項 ≪防災行政無線の活用について≫ （勝山市 総務部総務課 危機管理防災室）

1 防災行政無線の運用及び個別受信機等施設設備の取扱いについて

現在、勝山市では防災行政無線を平成29年度末で63ヶ所に設置している。主な設置場所は下記のとおりである。

【設置場所】①勝山指定避難所（学校等）②勝山指定避難場所（公園等）③洪水や土砂災害の発生の危険性のある地区

※個別受信機については平成29年度末で37ヶ所に設置。（主な設置場所は下記のとおり）

【設置場所】①勝山指定避難所（公民館、保育園等）②不特定多数が利用する公共施設（図書館、市民会館、健康福祉センター）③洪水や土砂災害の発生の危険性のある地区の高齢者施設や障害者施設等

≪勝山市の導入状況一覧≫

年 度	種 類	数 量	種 類	数 量
平成22年	防災行政無線	24局導入	個別受信機	32導入
平成23年	防災行政無線	5局増設	個別受信機	5台増設
平成24年	防災行政無線	11局増設	個別受信機	0台
平成26年	防災行政無線	5局増設	個別受信機	0台
平成27年	防災行政無線	7局増設	個別受信機	1台移設
平成28年	防災行政無線	8局増設	個別受信機	2台移設
平成29年	防災行政無線	3局増設	個別受信機	0台
	合 計	63局	合 計	37台

個別受信機のニーズとしては、37ヶ所以外の有償配布のニーズは少ない。理由として、防災行政無線の人口カバー率が高いことが考えられる。（カバー率94.8%）

屋外拡声子局の情報伝達の工夫点として、市民に「とにかく情報収集」をしてもらうことを呼びかけている。情報発信のツールが多様化されているので、防災行政無線はもとより※勝山市緊急メールサービスや広報車、福井県災害情報インターネットシステム、区長への電話連絡や勝山市ホームページの活用を呼びかけている。



※勝山市緊急メールサービス

配信情報

❖ 防災・気象 ❖ 火災情報（消防） ❖ 生活情報	【 防災・気象 】	
	❖ 過去のお知らせ	
	❖ 2018年07月16日 17時19分	気象情報
	配信先 「 気象警報 」 福井地方気象台より、16時44分に高温注意報が発表されました。 なお、北陸地方では17日の日中は気温が35度以上になる予報が発表されています。 熱中症など健康管理に注意してください。	

【勝山市緊急メールサービス】

災害時の避難勧告や気象警報、火災・クマ・安全安心に関する情報など、勝山市に関わる緊急情報を、希望される方へ携帯電話メールで配信するサービスです。

- カテゴリ
1. 防災情報・・・災害時の避難勧告・指示など
 2. 気象警報・・・勝山市に関する気象警報
 3. 火災情報・・・市内で発生した火災の時刻・地区名のみ送信
 4. クマ情報・・・クマの出没について時刻・場所・状況
 5. 安全安心・・・不審者情報など市民の安全安心に関する情報

2 防災行政無線活用の効果

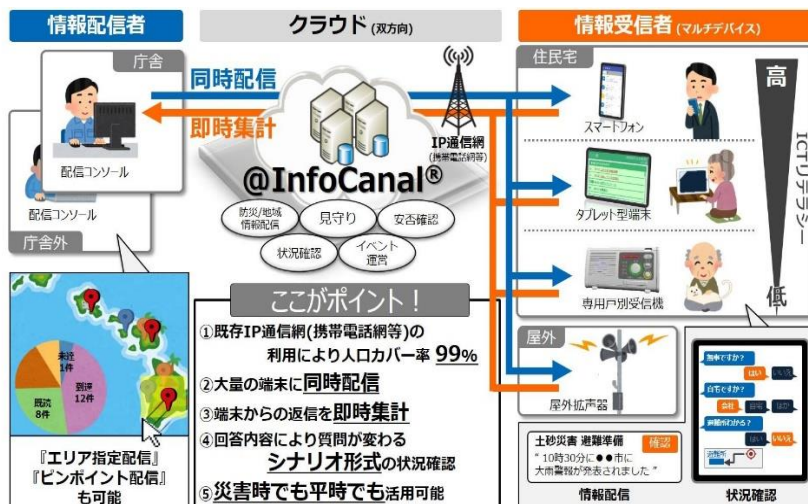
防災行政無線の活用によるメリットとして次の3点が挙げられる。①瞬時に住民への緊急情報（Jアラート）等の伝達が可能となった。②内容が聞き取れなくても、市から何らかの緊急情報が発信されたことが分かる。③範囲を限定した情報発が可能となった。

3 イニシャルコスト及びランニングコスト

- イニシャルコスト（防災行政無線1基 約500万円、個別受信機1台 約10万円※既製品、工事費込み）
- ランニングコスト（約600万円／年）
- 財源（①地方債：「防災対策事業債」充当率：90%、交付税参入率：50% 「緊急防災・減災事業費」充当率：100%、交付税参入率：70% ②補助金「原子力防災における住民避難対策補助金」県1/2補助 H26～H28の3ヶ年）

4 新たな情報発信のツールの検討

防災行政無線の整備は、平成22年から29年の8年間で63基を約4億円で整備され、勝山市の人口カバー率は94.8%となっているが、未設置地区が26地区(401世帯1,300人)あることや、設置済の地区でも「聞こえない」「聞き取りにくい」の声がある。また情報が伝わったかどうかの確認が出来ないことや、イニシャルコストが1基約500万のため導入が長期化となることから、携帯電波を利用したの伝達手段 ※@Info Canal(※アットインフォカナル)の導入を検討したが、経費的な面から導入を断念した。



※@Info Canal (アットインフォカナル)

双方向・マルチデバイス対応の情報配信／収集サービスである@Info Canalは、高い人口カバー率の携帯電話網やW i - F i等のI P通信網を利用し、災害時などの通信混雑状態に極めて強い仕組みで、簡単・確実な同時配信と即時集計を実現。これまでの課題である不感地帯対策や到達・鳴動の確認、配信手段の多様化、導入コスト削減・期間短縮、運用負担の軽減などを解消し、災害時でも平時でも様々なユースケースに適用可能。

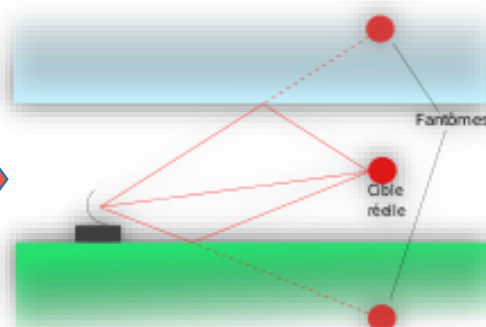
(NTT-AT Confidential 提案)

5 今後の課題と方針

今後の課題として、市の85%を山林が占めている勝山市では、※マルチパスによる電波障害や、音達範囲が重複する場合のハウリングの解消として時差式放送などを試みているが、マルチパスによる全ての反射を排除することは不可能であり今後の課題である。

【マルチパス】

親局から子局に電波を送信した際、山や建物と言った地形の反射が影響し、直線的なルートによってアンテナに届く信号と山や建物などによって反射した信号が干渉し、電波障害を引き起こす現象



現在の63基の防災行政無線で、ほぼ勝山市全域をカバー出来ることから、平成30年度より防災行政無線の整備を一旦中止する。代わりに、勝山市緊急メールサービスの利用者数の増加に努める。

防災出前講座や住民避難訓練などの場を活用し、積極的に周知を行う。

Ⅲ 勝山市の視察を終えて

豊岡市が現在整備を進めている、防災情報システムのデジタル防災無線整備について、福井県勝山市に視察を行った。

勝山市防災行政無線は、災害などの非常時に緊急放送を伝達するシステムで、親局が勝山市役所で市指定避難所を中心として市内 63 箇所（内九頭竜川沿いの4局はモーターサイレン付き）に子局が設置されており、市役所の防災無線室からデジタル無線を送信し、親局と子局にある拡声スピーカーで様々な情報を放送し、緊急時には非常用電源機能があることにより電話が不通の時でも子局から市役所へ連絡ができ、子局からその周辺への緊急放送を行っている。

また、無線の受信のみを行う個別受信機も公共施設を中心に 37 箇所設置されているが、防災行政無線に全てを頼る訳ではなく勝山市は有力な情報伝達手段の一つとして捉えている。防災行政無線は電波の関係で設置が難しい場所があり、市内全ての地区で放送が聞こえる訳ではないとのこと。雨天時の屋内、或いは風向きによっても放送が聞こえにくい場所があるので、防災行政無線とあわせて携帯電話を利用した緊急メールサービスの利用を開始し、市民に「とにかく情報収集」をしてもらうことを呼びかけている点が印象的であった。

本市においては、既設のアナログ同法系防災行政無線設備から 32 年度末を目途にデジタル防災行政無線設備に更新予定としているため、本市議会防災対策調査特別委員会にとって有意義な視察であった。



▲熱心に説明を聞く委員（勝山市役所にて）



▲勝山市総務課危機管理防災室 職員より説明

【あわら市】



I 県の概要（位置・地形等）

1 沿革・位置・地勢

あわら市は、福井県の最北端に位置し、北は石川県加賀市、南は坂井市に接し、市の北部には北潟湖、坂井北部丘陵地、中央部には J R 芦原温泉駅と芦原温泉街を核とした 2 つに市街地を形成し、南部は田園地帯、東部は刈安山、風谷川峠、剣ヶ岳を結ぶ標高 500～600m の森林地帯がそれぞれ位置しており、田園地帯と市街地を貫くように県下 5 大河川の一つ竹田川が流れている。

交通は、J R 北陸本線、えちぜん鉄道、北陸自動車道、国道 8 号線、国道 305 号線の主要交通路が南北に貫き、J R 芦原温泉駅、金津インターチェンジは福井県の北の玄関口として重要な位置を占めている。面積は、東西約 14km、南北約 14km にわたり、面積は 116.99 平方キロメートルである。



2 気象・地域資源

あわら市の気候は、北陸地方の中でも比較的温暖で、気象環境は過ごしやすいものとなっている。美しい日本海、静かな湖や川、緑豊かな山々、優れた泉質の温泉、太陽をいっぱい浴びた農作物など、自然の恵みにあふれたまちである。

九頭竜川以北に広がる水田地域、野菜・果樹生産が盛んな丘陵地域、里地里山の風景が広がる山間地域、越前加賀海岸国定公園に指定されている海岸線と北潟湖、そして、130 余年の歴史を持つあわら温泉などの多様で豊かな環境が備わっている。野菜や果樹栽培が盛んな一方で、製造業を中心に県内でも有数の企業があり就職先も豊富である。

福井県屈指の温泉街として「関西の奥座敷」と呼ばれ、昔から多くの文人墨客に愛されてきたあわら温泉は、温泉療法医がすすめる名湯百選に選ばれている。

また、2007 年末にあわらゆのまち駅前のスペースに「あわら温泉屋台村 湯けむり横丁」がオープンし、観光客と地元住民との憩いの場として賑わいを見せている。



▲「関西の奥座敷」あわら温泉

人気の観光スポットとして、あわら温泉の「芦湯（足湯）」や「屋台村湯けむり横丁」、さまざまな分野で活躍中のアーティストたちが、四季折々に表情を変化させる自然の中で「森」とともに生活を営み、創作活動を行なう体験型美術館「金津創作の森」や、自然と遊びを満喫できる「北潟湖畔公園」、ゴルフ場は4カ所があり、波松海岸はサーフィンや釣りで人気である。



▲「各屋台店の将来的な独立を前提とした屋台村」
ー湯けむり横丁ー



▲人と自然 アートが交差する 金津創作の森

3 経緯（あわら市、旧芦原町、旧金津町）

旧芦原町は人口約 14,000 人で、明治 16 年の芦原温泉の開湯によって温泉街が形成され、明治 44 年の国鉄三国鉄線（昭和 47 年廃止）や昭和 3 年の京福電鉄三国芦原線（平成 15 年 4 月から「えちぜん鉄道」）の開通によって、豪華さと優美を誇る近代的な温泉観光地として発展してきた。

旧金津町は人口約 18,000 人で、古くから福井県嶺北地方の交通の要衝として栄え、明治 30 年の北陸自動車道金津インターチェンジ開設など交通網の整備に伴い、県内でも有数の工業製品出荷額を誇る町として発展してきた。

両町は、明治時代に幾つかの統廃合や名称の変更等を繰り返し、その後、町村合併促進法の施行（昭和 28 年）に伴い、昭和 29 年 10 月に 1 町 4 村の統合及び翌年 2 月の劔岳村編入により金津町が、昭和 30 年 3 月の 1 町 2 村の統合により芦原町がそれぞれ形成された。

特に、旧芦原町と旧金津町は、温泉街を有する町と観光の玄関口を有する町という密接な関係を持っており、古くより両町民の生活行動圏域も町域を越えた広がりを持っていた。

このような背景から、両町では平成 14 年 10 月に芦原町・金津町合同合併協議会を発足させ、平成 15 年 2 月には合併協定書調印、同年 8 月に両町の廃置分合について総務省告示を経て平成 16 年 3 月 1 日に平成の大合併としては、県内第 1 号となる「あわら市」が誕生した。

Ⅱ 調査事項

《平成 30 年豪雪について》

1 平成 30 年 2 月大雪の特徴

積雪量が 4 日間で 115cm (32cm→147cm) と急激に増加する「ゲリラ豪雪」

【日本海寒帯気団収束帯の影響】※短期間に積雪が増加した点では、S38、S56 の豪雪に肩を並べる。

2 あわら市における大雪の状況 ※2/5(月)～2/13(火)にかけて大雪

- ・ 2/5(月)～2/7(水) 県内一円大雪警報、2/12(月)～2/13(火)：嶺北大雪警報
- ・ 最深積雪 名泉郷(山地区)：168cm、宮領(平野部)：151cm

3 市民生活への影響について

区 分	状 況
北陸自動車道	加賀 I C～武生 I C 2/5(月)23:40～2/7(水)6:30 (31 時間) 通行止
国道 8 号線	あわら市熊坂～坂井市丸岡町一本田(延長あわら市牛ノ谷～福井市和田二丁目) 2/6(火) 11:00～2/9(金) 5:00 (66 時間) 通行止め(停滞車両約 1,500 台)
北陸本線 (J R)	2/5(月) 特急上下 31 本運休、普通 30 本運休 2/6(火)～2/7(水) 終日運休 2/8(木) 特急終日運休、普通金沢～福井終日運休、普通福井～敦賀午前中から運行再開 2/9(金) 特急午前中から運行再開、普通金沢～福井再開 2/12(月)～2/13(火) 特急終日運休、普通福井～敦賀終日運休 2/14(水) 特急 8 本運休、普通福井～敦賀運行再開
越前鉄道 三国芦原線	2/6(火)～2/8(水) 終日運休 2/9(金) 午後から福井～新田塚再開 2/10(土) 午後から新田塚～西長田ゆりの里再開 2/11(日) 夕方から西長田ゆりの里～三国港再開 2/13(火) 夕方から全線で再開
人的被害	除雪作業時の転落、落雪した雪氷による負傷、交通渋滞中の救急搬送 重症 1 名、軽傷 4 名、合計 5 名
物的被害	住家：半壊 1、一部破損 58 非住家：全壊 6、一部破損 16
農林業被害	椎施設被害：549 棟(パイプハウス、椎肥舎、梨棚) 1,105a 5 億 5,480 万円 作物被害：イチゴ、キク、ネギ、コカブ、ハウレンソウ、アスパラ、トルコキキョウ、カンショ 2,410 万円
観光被害	宿泊予約キャンセル 11,043 人(2,695 件) 2 億円以上
除排雪経費	約 2.6 億円



交通麻痺 物流の停滞、市民生活の停滞

社会・経済活動の停滞！！

4 国道8号線で発生した車約1,500台の立ち往生の状況について

日 時	状 況
2/5(月) 23:40	北陸自動車道(加賀IC～武生IC)除雪のため通行止 →多くの車両が国道8号線に流入【国道8号車両集中による渋滞】 →除雪継続 →徐々に立ち往生する車両(雪に弱い大型トレーラー等)が増えだす
2/6(火) 11:00	国道8号加賀市熊坂～坂井市一本田(約20km)約1,000台の立ち往生、完全にストップ →除雪継続 →最大1,500台の車両が立ち往生(雪に埋もれていた)
2/6(水) 12:17	福井県が陸上自衛隊に災害派遣要請を行う(～2/9(金))
2/7(木) 6:00	北陸自動車道通行止め解除 ※しかし国道8号線の車両滞留改善に効果は見られなかった
2/9(金) 5:00	国道8号線通行止め解除 ※以降も圧雪により大型トレーラー等がスタックして渋滞は継続、近畿地方整備局は継続して圧雪除去、道路拡幅除雪を継続



▲国道8号線 立ち往生の様子



▲陸上自衛隊の活動の様子



▲国道8号線 立ち往生の様子

5 発生時の対応について

(1) 市の体制

日 時	内 容
2/6 (火) 07:00	あわら市雪害対策連絡会議設置
2/6 (火) 14:00	あわら市災害対策本部に格上げ
2/7 (水) 07:00	全職員災害対応業務優先体制始動・本部長指示
2/8 (木) 16:00	あわら市災害対策本部に雪害対策チームを設置
2/10 (土)	全職員参集体制＋県職員 14 名
2/11 (日)	全職員参集体制＋県職員 13 名
2/12 (月・振休)	各課半数参集体制＋県職員 17 名
2/19 (月) 09:00	あわら市災害対策本部閉鎖（「雪害対策連絡会議」に移行） ※「雪害対策連絡会議」協議内容 ・除雪状況報告・作業取組計画・各班情報共有・市民向け提供情報調整 ・本部長重点作業指示・今後の対応等の協議

(2) 対策会議（計 39 回実施）

日 時	内 容
2/6 (火) 07:00	第 1 回あわら市雪害対策連絡会議
2/6 (火) 11:00	第 2 回あわら市雪害対策連絡会議
2/6 (火) 14:00 ～ 2/19 (月) 08:30	第 1 回～第 31 回あわら市災害対策本部会議
2/20 (火) 08:30 ～ 2/28 (水) 08:30	第 1 回～第 6 回あわら市雪害対策連絡会議

2/6 (火) ～ドライバーに対する炊き出し開始 （おにぎり約 8,400 個、飲料水 2,400 本）
沿道に 3 箇所の休憩所の設置 ※それ以外に、沿道市民有志による差し入れ等がなされた。

6 課題及び今後の対応について

(1) 除雪体制の見直し

- ・除雪本部編成の強化
- ・除雪優先道路の区分見直し
- ・豪雪時における排雪・堆雪場所の強化
- ・自助・共助・公助の連携強化
- ・市保有除雪車の強化
- ・県との連携強化
- ・県・市町連携してのGPSシステム導入要求
- ・除雪計画の細分化（日日計画、都市計画の策定・周知）の検討
- ・各種対応マニュアルの策定（除雪パトロール要領、市民相談対応要領、他）

(2) 広報（情報発信体制）の強化

(3) 要配慮者支援対策の強化

7 その他

(1) 通学・通勤者のための歩道除雪対策

- ・歩道除雪計画を今後検討
- ・小型除雪車（歩道用）の整備推進

(2) 週間天気予想及び直近の天気予報の活用について

- ・県の防災情報と常に連携し、対策本部会議等の前に気象台ホットラインを確認、報告

Ⅲ あわら市の視察を終えて

この度、福井県あわら市の平成 30 年豪雪の状況について視察を行った。

あわら市は、2月4日から7日にかけて日本付近に強い寒気が南下し、北日本と東日本・西日本の日本海側の広い範囲で大雪となった。福井県嶺北地方では6日16時までの24時間降雪量が60cmを越える記録的な大雪となった。あわら市では5日の32cmから9日までの4日間で115cm増加し、147cmとなり、これは日本寒帯気団収束帯の影響で急激な積雪増「ゲリラ豪雪」となった。短期間に積雪が増加した点では、昭和38、56豪雪に肩を並べた。

この降り続いた大雪により、5日23時40分には北陸自動車道（加賀IC～武生IC）が除雪のため通行止めとなり、多くの車両が国道8号線に流入し、車両集中による渋滞が発生、徐々に立ち往生する車両（雪に弱い大型トレーラー）が増えだし、坂井市からあわら市の10km区間で車1,500台が立ち往生し、完全にストップした。

福井県は、自衛隊に災害派遣を要請し、災害対策本部を設置した。自衛隊、国交省、市、除雪業者が懸命に除雪作業を実施したが、国道8号線の立ち往生は9日未明まで続く状況であった。

これらの教訓を基に、「雪に強い国道8号の整備促進」として、あわら市笹岡から坂井市丸岡玄女5.4kmについて早期に4車線化を要望。

本市においても、昭和38、56豪雪を経験しており、今回、豊岡地域においても海岸部では大雪となり、風向きによってはあわら市同様に大きな被害になった可能性がある。

雪害に備え、今後更に国・県・除雪業者とも協力し、体制を再確認しておく必要があり、本市議会防災対策調査特別委員会にとって有意義な視察であった。



▲あわら市議会事務局長挨拶（あわら市役所にて）



▲あわら市職員（総務課、建設課）と森議長



▲あわら市議場にて－森議長を囲んで－